

Puccini's La Bohème Isango Ensemble

プッチーニのラ・ボエーム
Abanxaxhi
イサngo・アンサンブル
2013.12.19-22
東京芸術劇場

南アフリカのオペラ・カンパニー「イサngo・アンサンブル」による ラ・ボエーム 東京公演について

- 日程 2013年12月19日(木)～22日(日)
- 会場 東京芸術劇場 プレイハウス (東京都豊島区西池袋1-8-1)
- 主催 東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)
東京都 / 東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)
- 共催 世界エイズ・結核・マラリア対策基金
(公財)日本国際交流センター (世界基金支援日本委員会事務局)

ヒロインが結核で命を落とす名作「ラ・ボエーム」の現代アフリカ版創作オペラ

プッチーニの名作オペラ「ラ・ボエーム」は、ヒロインが結核で命を落とす物語です。原作の舞台となった19世紀初頭から20世紀の半ばまで、結核は世界中で猛威を振るっていました。日本でもかつては国民病、亡国病といわれるほど多くの方が亡くなっていました。現在、先進国では医療の進歩と生活環境の改善により結核は少なくなっていますが、貧しい国々では、今でも結核が主要死因のひとつとなっています。

そのことをより多くの人に知ってもらうため、途上国の結核対策を支援する世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)と、南アフリカの若き芸術家グループ「イサngo・アンサンブル」のパートナーシップにより、この創作オペラが誕生しました。

2012年2月にケープタウンで世界初演、同年5月ロンドンで欧州初演に続き、東京芸術劇場の招きにより2013年12月にアジア初演として東京で公演が行われます。アフリカのアーティストによる優れた芸術を紹介するとともに、結核という古くて新しい病気の脅威に対し私たち日本人は何ができるかを問いかけます。

イサngo・アンサンブルとは

イギリス人の演出家マーク・ドーンフォード＝メイが、南アフリカ・ケープタウンの若い歌手・俳優・音楽家たちと創立したオペラ・カンパニー。2008年に「魔笛」により、イギリスでもっとも権威ある舞台芸術賞であるローレンス・オリヴィエ賞最優秀リバイバル・ミュージカル作品賞を、2005年に「i-Carmen eKhayelitsha」(フィルム)でベルリン金熊賞を受賞。

マーク・ドーンフォード＝メイは、長年イギリスの演劇界で活躍していたが、ある作品のオーディションのために南アフリカを訪問し、そのタウンシップ(黒人居住地区)で才能にあふれながらも活躍の場のない、多くの若者たちに出会う。彼は心を動かされ、南アフリカに移住しイサngo・アンサンブルを設立。この劇団は瞬間に世界中から招聘され、各地で多くの舞台芸術賞を受賞するようになる。西洋の古典作品を南アフリカ風にアレンジしたり、南アフリカの伝統を継承する作品を創作するなど、タウンシップに光をあてた公演は世界中で注目を浴びている。

<http://www.isangoensemble.org.za/>

「モーツァルトが生きていたら、まず驚き、それから、歓喜したに違いない」

—サイモン・ラトル(ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者兼芸術監督)—

公演概要

イサゴ・アンサンブル「プッチーニのラ・ボエーム Abanxaxhi」

公演日程 2013年12月19日(木)18:30開演 20日(金)14:00開演
21日(土)14:00開演 / 18:30開演 22日(日)14:00開演 (全5回公演)

会場 東京芸術劇場 プレイハウス(2階) 東京都豊島区西池袋1-8-1 TEL 03-5391-2111

チケット料金 S席6,000円 A席4,500円
高校生割引1,000円 25歳以下2,500円 65歳以上5,500円 (全席指定・税込)
(チケットのお求めについては東京芸術劇場のウェブサイトへ)

主催 東京芸術劇場(公益財団法人 東京都歴史文化財団)
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人 東京都歴史文化財団)

共催 世界エイズ・結核・マラリア対策基金
公益財団法人 日本国際交流センター(世界基金支援日本委員会事務局)

特別協賛 武田薬品工業株式会社
協賛 日本ビーシージー製造株式会社
後援 外務省
南アフリカ共和国大使館
豊島区
独立行政法人 国際交流基金
独立行政法人 国際協力機構
公益財団法人 結核予防会
公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会
認定NPO法人 ストップ結核パートナーシップ日本
特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会
特定非営利活動法人 日本リザルツ
一般社団法人 グローバルヘルス技術振興基金
認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
公益社団法人 日本青年会議所

平成25年度文化庁劇場・音楽堂活性化事業

関連講座 「現代アフリカの演劇」10月25日(金)19:00-21:00 講師:鴻英良(演劇評論家)

「結核と芸術-佳人薄命の系譜」11月2日(土)14:00-16:00

講師:福田真人(名古屋大学大学院教授)

「結核ってどんな病気？」11月28日(木)19:00-21:00

講師:村上邦仁子(結核予防会結核研究所国際協力・結核国際情報センター主任)

関連講座の会場
はいずれも東京
芸術劇場。詳細
については劇場
HPをご覧ください。

■ 世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (世界基金)

発展途上国のエイズ、結核、マラリア対策を支えるための資金を提供する国際機関として2002年1月にスイスに設立。各国の政府や民間財団、企業など国際社会から大規模な資金を調達し、開発途上国が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援のための事業に資金を提供している。これまでに268億ドルの資金を集め約140カ国に支援。これにより、世界中で870万の命が救われたと推計されている(途上国の結核対策に対する国際支援の82%が世界基金からの支援)。

国連内に新たに作られた基金ではなく、また個人や企業の出捐による民間財団でもなく、官民パートナーシップにより成り立っていることが特徴。2000年のG8九州沖縄サミットでの日本の提唱が発端となって設立されたことから、日本は世界基金の「生みの親」のひとつと称されている。これまでに日本政府からは合計17億4492万ドル(約1835億円)が拠出されている。

■ 東京芸術劇場

芸術文化の振興と国際交流を目的に平成2年に開館。音楽専用の大ホール(コンサートホール)、演劇・舞踊等の公演を行う中ホール(プレイハウス)と2つの小ホール(シアターイースト/ウエスト)を備えた複合的な芸術文化施設。平成21年に野田秀樹が初代芸術監督に就任、東京都の音楽・舞台芸術を代表する「顔」となる劇場を目指している。

公演のみどころ

■ 名作オペラとアフリカ音楽との融合

声を楽器として昇華させた国、南アフリカが誇る オペラ・カンパニー「イサンゴ・アンサンブル」。

1830年代のパリを舞台にしたプッチーニの名作オペラが、現代の南アフリカのタウンシップ(黒人居住区)を舞台に、仕事もお金もない若い男女が貧しくともお互いを思いやりながら生きる、現代のドラマとして生まれ変わりました。プッチーニによる「ラ・ボエーム」の名曲はそのままに、マリンバとスティールパンの生演奏と、アフリカン・テイストあふれる合唱とダンスが加わる、ダイナミックな新しい「ラ・ボエーム」です。

■ 薬があれば救えた命

結核で命を落とすヒロイン・ミミ。薬さえあれば救えたはずの命、防げたはずの死の無念さは、19世紀パリでも現代の社会でも、変わりありません。貧しさゆえに薬が買えない、制度がないために薬や医療サービスが人々に届かない。貧しい国では、結核がいまなお最大死因の一つであることを、この作品は思いおこさせてくれます。

■ 結核は身近なこと

“ たくさんの友人と親戚が、結核で死んでいった。
誰もがオープンにしたがらない、でも身近にあるのが結核だと思う。
このラ・ボエームを見たことで、皆が結核について話すようになってほしい。
これまで色々な役を演じてきたけれど、この作品は本当に特別だわ。”

—ポーリーン・マレファネ (ヒロイン役ソプラノ歌手)

イサンゴ・アンサンブルのメンバーの多くは、タウンシップ出身の才能あふれる若者たちです。結核は、彼らにとっても身近で切実な問題です。世界基金の存在は皆が知っており、世界基金とのコラボレーションはイサンゴにとって自然な成り行きでした。歌手たちが自らの思いを込めて演じます。



お問い合わせ

日本国際交流センター (世界基金支援日本委員会事務局)

〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17 TEL: 03-3446-7781(代) FAX: 03-3443-7580 fgfj@jcie.or.jp

ラ・ボエーム公演 ウェブサイト www.jcie.or.jp/fgfj/laboheme

東京芸術劇場 (公演について・チケットのお求め・関連講座についてのお問い合わせは東京芸術劇場へ)

ウェブサイト www.geigeki.jp/performance/theater037/

電話 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00-19:00)

■ 日本国際交流センター

国際関係や地球的課題、政治・経済・社会など幅広い政策課題をめぐり、日本と諸外国の相互理解と協力関係を促進し、国際社会の発展に寄与することを目的として1970年に設立された民間の事業型財団。東京とニューヨークに拠点を置き、国際的な政策対話・共同研究や政策提言、企業市民活動の推進など、非営利・非政府としての立場から幅広い国際交流事業を実施している。2004年に、世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援する日本の民間委員会「世界基金支援日本委員会」を立ち上げ、その事務局を務める。

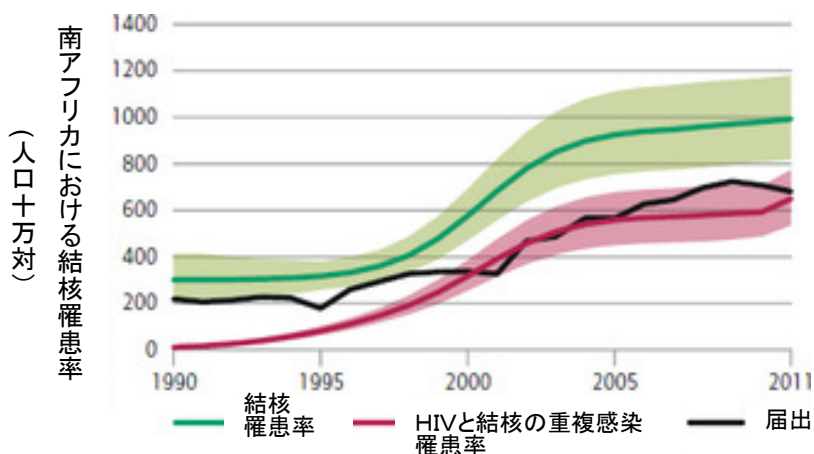
結核は治療可能な病気ですが、依然として世界で最大級の感染症であり、1年間で約900万人が新たに発病し、140万人が命を落としています。

そのほとんどが発展途上国で起こっており、結核はまさに健康を巡る深刻な南北問題といえるでしょう。なかでもアフリカはエイズのまん延が火に油を注ぐ形になっています。HIV(エイズウイルス)感染者は何十倍も結核を発病しやすく、HIV合併の結核は治療が困難です。さらに最近には薬に抵抗性のついた「多剤耐性結核」が増え、結核の治療をいっそう難しくしています。アフリカ各国政府はもとより、日本を含めた先進国や国際機関はこのような途上国の結核の対策に取り組んでいます。

南アフリカの結核

南アフリカは、インド、中国について世界で3番目に結核が深刻な影響をもたらしている国です。世界保健機関(WHO)の最新報告によると、結核が非常に蔓延している22カ国中、10カ国では結核の罹患率が減少しつつあり、11カ国では増減なしであるのに対し、唯一南アフリカのみが毎年少しずつ増加傾向にあります。

2011年に約50万人(人口10万中993)が結核を発病し、そのうち25,000人が結核で死亡しました。最も感染しやすいのがタウンシップや無認可居住区に住む25~44歳の年齢層ですが、他にも鉱山労働者、囚人、移住労働者、医療従事者やHIV陽性者などが結核にかかりやすい脆弱な立場にあります。



出典：Global TB Report 2012

南アフリカでの結核蔓延の背景には、エイズの流行があります。南アフリカのHIV陽性者の数は世界で最も多く、上述のように、免疫力が低下しているHIV陽性者は結核を発病しやすいため、結核とHIVの重複感染が急速に増えています。また、多剤耐性型結核も深刻な問題であり、2011年現在、1万人の患者がいますが、そのうちの半分しか治療が受けられていません。南アフリカは経済が発展し政府も感染症対策にコミットしているため、結核の治療とケアに自国政府予算の相当額を割いていますが、それでも、エイズの流行と相俟っての結核蔓延を阻止し、多剤耐性型の治療を拡大するための資金は不足しています。世界基金は、これまで南アフリカの結核対策に8500万米ドルを支援してきました。

日本の結核

日本でも戦後すぐの時期まで結核は最大死因で、将来ある多くの若者の命を奪ってきました。例えば、樋口一葉、石川啄木、正岡子規、中原中也、堀辰雄などの歌人や作家が結核に倒れており、「風立ちぬ」など多くの作品で結核の療養をする人物がとりあげられています。

しかし、現代の日本社会でも、結核は決して他人事ではありません。日本では年間約2万人が新たに結核を発症し、毎年2000人以上が亡くなっています。特に高齢者、糖尿病などの健康問題を抱える人々、生活困窮者、結核蔓延国出身者など社会的経済的弱者は結核の発病リスクが高いとされています。亡国病といわれた時代から脱しましたが、日本は他の先進国から遅れをとって今なお中程度の結核蔓延国に分類され、結核は身近な病気であり続けています。